

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	南さつま児童発達支援事業所 カラフル			
○保護者評価実施期間	令和7年1月21日		～	令和7年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～	令和7年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達全般を精査しながら、より個々にあった支援計画を作成し実施している	日々の療育後に支援に携わった職員全員で振り返り(グループ会議)や個々の課題の確認や取り組みを話し合い、その時々で成長や変化を見せる子どもたちに即対応できるようにし、次回の課題や支援方法などの共通理解を図っている。また、その際、個別課題の評価や様子の客観的記録を残している。その後、記録を基に担任と児童発達支援管理責任者で、さらに客観的な視点で精査し、独自の発達指標やフォーマルな指標を用いて発達評価をし、より個別的な目標を決定、支援計画を作成し実行している。	*より子どもの現在の発達に沿って、半歩先の支援を行うためには、発達を見る目や客観視するという力が必要であるため、現在行っている年に3回程の全体での療育についての社内学習会を、年6回行うようにする。 *児童発達支援管理責任者がグループ会に入れず、後で担任から情報を聞き対応を指導する時があるため、グループ会に児童発達支援管理責任者もできる限り参加し、職員全員で具体的な関わり方や現状のこどもの様子の評価について、共通理解を図れるように取り組むことで、更なる充実を図ってきたい。
2	「人を好きになる」「人を求める心」を通じ、将来「人を支えに乗り越える力」を獲得できるよう取り組んでいる	子どもの成長過程においては「安心」が不可欠であるが、子どもの中にはその安心を、特性や感覚面から得ることが難しい子もいる。こどもによっては愛着の形成が上手くいかないことがあり、家庭で母親が子に対して、母親の存在意義や子育ての喜びを持つことが難しく悩むことも多いため、子どもの状況を母親と共有し、共に愛着の形成が図れるように取り組んでいる。そして、人を安心の土台にできるよう「人を求めてやまない心」を育て、将来、人とのコミュニケーションが困難な障害があったとしても、少しでも人に助けをもらえたり人を支えにできる力が獲得できるように支援している。	分離で利用しているお子さんの保護者も、親子で利用する日を設け、事業所での取組や職員の関わり方などに触れることで、家庭でも楽しんで子どもとの関わりができるような支援を行う。
3	保護者に寄り添った支援を行っている。	面談時にはもちろんのこと、日々のこどもの様子を報告する際に、こどもの様子を保護者にわかりやすく説明し、こどものもつ特性や課題について、家庭では見られない姿などがあるため、丁寧に説明し共通理解を図れるようにしている。保護者が一人で悩むことがないよう、保護者から相談があれば、共に悩み、考え、具体的な対応策や手だて等をわかりやすく、できる限り早く伝えるような支援を行っている。また、予約なしでいつでも相談できる日を定期的に設定している。	今まで通りのいつでも相談を受ける体制を継続し、学習会も続けながら、今年度よりペアレントトレーニングも取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	全体会議や全体での学習会の際に、児童発達支援管理責任者や療育経験が長い職員等からの発言や問題提起が多く、発言する者に偏りがみられる傾向がある。	療育に初めて携わる職員にとっては、分からないことが多く何から質問していいのかわからないのかもしれない。また、全職員が集まって行う全体会議が頻繁には行われていないため、緊張したりなど発言がしにくいなのかもしれない。	＊全体会議の時もグループ会のように自由に意見交換ができるようになれば、こどもたちの支援もさらに充実すると思われる。現在、会議や事業所内研修の運営を決まった職員で行っているため、今年度から運営を分担し、担当者を決め取り組むようにする。 ＊会議や研修を行う前に、職員に先に内容について周知を行い、学びたいことや気になっていること、伝えたいこと等を、簡単に記載して先に提出してもらうようにする。
2	担任により、家庭との連携の在り方に差がある。	家庭での育ての悩みなどに対応するためには、子どもの特性や発達の理解が必要であるため、対応することに難しさや自信がないという理由等で、表面的な対応になってしまっているのではないと思われる。	＊保護者とのやりとり等についても、担任が児童発達支援管理責任者と話し合う時間を、より多く持てるよう、児童発達支援管理責任者の仕事のスケジュール管理を行う。 ＊こどもの様子は、集団、カラフル、家庭など環境によって異なることがある、ということを常に念頭に置き、保護者の気持ちやこどもの特性に合わせて対応することが大事である。家庭ではどのようなことが予測されるのか、こどもの様子を推察できるよう、発達や特性について深く学ぶ機会を設けたり、日々の支援の中で疑問に思ったことやわからないこと等を質問せずにおわってしまうことがないよう、様々な場面で実体験を通して学んでいけるようにしていく。 ＊成人したこどもを持つ保護者から、こどものこれまでの家庭での育ちの様子や、保護者が葛藤していたこと等を聞く機会を設けることで、二次障害へ繋がることがないよう、こどもの将来の姿を見据え、今できる支援がどれほど重要であるかを再認識し、真摯にこどもや保護者と向き合う姿勢を養うようにしていく。
3	子ども達が遊べるハード面のおもちゃなどが少ない。	予算的な問題で購入が難しかったり、玩具の種類や数に偏りがある。	＊家庭での支援に繋げるためにも、身の回りにあるものなどで工夫して遊ぶことや、同じ素材でも発達に合わせて遊び方が違うことも示し、操作性や巧緻性などを高める取り組みをしている。 ＊目と手の協応や手指の操作性等では特に、現在、様々なより効果がある支援道具や玩具が販売されている。そのため、予算の範囲内で、より効果もあり発達にも合わせられるようなものを作成したり購入したりする。また、支援道具を作成する日を設け、それまでに素材を準備し、その日にきちんと作成できるようにする。 ＊新たにおもちゃを購入する際には、皆で話し合い、どのような場面で発達を支援できるかを考えた上で、現在の「家庭でもできる支援」という考え方も大事にしながら高価でないもので見つける。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

児童発達支援評価表

事業所名		南さつま児童発達支援事業所カラフル		公表日				令和7年2月25日							
				利用児童数				23				回答数		22 (95.6%)	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見				ご意見を踏まえた対応				
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動内容に合わせたスペースが工夫されていると思いますか。	22												
	2	職員の配置数は適切だと思いますか。	22												
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境*1になっており、事業所の設備等は、こどもの特性に応じて、環境整備や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	1		1									
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっており、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22												
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22												
	6	事業所が公表している支援プログラム*2は事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21			1									
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*3(以下「個別支援計画」と言う)が作成されているか	22												
	8	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインに掲げられている「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」「家族支援」「家族支援」「移行支援(小学校等へ就学時の移行支援)」の支援内容から、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	22												
	9	個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21			1									
	10	活動プログラム*4が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21			1									
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	15	1		6									
	12	運営規定、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21	1											
	13	「児童発達支援計画(個別支援計画)」を示しながら支援内容の説明がなされたか	22												

保護者への説明等	14	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*5等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が実施されていますか。	22				仕事で参加できない事が多いので、動画や資料が頂ければよいなと思うことがある。	保護者やご家族に向けての学習会や研修を行っています、都合がつかず参加できない方々もいらっしゃる、後日資料を渡す等して参加できない方も機会がもてるよう工夫していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	22				ライン等で活動の様子がわかり子どもがうまく伝えられなくてもわかることもあり、子どもも楽しそうに話をしてくれます。	LINEや電話、対面等でこどもの状況を伝える等して、こどもの様子だけではなく、課題等も共通理解が図れるよう取り組んでいます。
	16	定期的に面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21	1				
	18	保護者や兄弟児など、保護者や家族同士の交流の機会が設けられていますか。	22					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22				*どの程度から相談したらよいのか分からないです。 *ちょっとした事でも相談にのってくれて、わかりやすいアドバイスを頂けるのでいつもありがたいです。	*保護者の方が一人で悩みを抱え込むことがないよう、相談には随時対応し、具体的な対応策等を伝えるようにしています。また、保護者やご家族が自由に相談に来れる日を、月に1度程定期的に設けています。 *どんな些細なことでも相談できるような雰囲気づくり、日頃から保護者の皆さまとコミュニケーションをとるよう心がけています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	20	2				
非常時等の対応	21	活動概要や行事予定、連絡体制等の情報について、定期的に通信やホームページ・SNS等で連絡されていますか。また事業所における自己評価の結果について発信、公表されていますか。	20	1		1		
	22	個人情報の取り扱いに十分留意されていると思いますか。	20	2				
	23	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	1		1		
	24	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	1		3		
	25	こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	1		1		
	26	事故等(怪我等を含む)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	22					
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	21	1			「安心感」を大事にくださる先生方なので本当に助かっています。	こどもが自らやりたいと思えるような環境づくりや声かけ、安心して通えるような環境づくり、支援に取り組んでいます。

満足度	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21	1		*療育日だから、と園に行けることもあるくらい楽しみにしています。 *毎週楽しみにしていて「今日はカラフルの日だよ」と言う「やったー ♪」とうれしそうです *毎週療育の日を楽しみに過ごしているようです♡♡ *いつも楽しい活動をしてくれるので、楽しみに通っています	こどもが通所を楽しみに、自ら「カラフルに行きたい」と思えるような支援、活動内容の工夫、環境づくりに今後も取り組んでいきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21	1		*先生方、いつも本当にありがとうございます。大満足です！！ *子どもの気持ちが満たされているようでとてもありがたいです。大大大満足です☆☆ *子どもだけでなく親にも親身に寄り添って頂き、とても感謝しています。 *いつも丁寧に対応していただき感謝しています。	その子に合わせたきめ細やかな支援を行っていけるよう、また保護者の皆さまやご家族が悩んだ時に共に悩み考え、寄り添って支援していけるよう、取り組んでいきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
南さつま児童発達支援事業所 カラフル		令和 7 年 2 月 25 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		これまでよりさらに広いところに事業所移転し十分なスペースが保たれている。静の活動の部屋、動の活動の部屋と分けており、また活動に応じてスペースを区切ったり等工夫している。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員は十分に足りている。発達や特性、愛着形成など、ねらいにより1対1で丁寧に対応したりなど、意図的に臨機応変に、適切な配置ができていると思う。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		身辺整理の部屋、お集まり、静の部屋、動の部屋というようにわかりやすくしている。特性に応じて、仕切りを使ったりして視覚的な情報を制限したり、見通しがたやすいように写真や絵で活動を伝えたり等 特性に合わせて工夫している。	移転したばかりということもあり、階段や出入口等バリアフリー化が整備されていない箇所があるため、整備をすすめていきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃や消毒、換気など頻繁に行うようにしている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		十分な部屋数があるため、こどもが個別で過ごせるスペースをそのときどきで設けている。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		療育活動前にねらいや支援方法の確認を行い、療育活動後にグループ会議で、疑問に思ったことや支援の方法などを共有し話し合いを行っている。支援が適切であったか、課題等を共有し改善策を皆で共に考え、実行するよう取り組んでいる。	療育活動については、PDCAサイクルがよくなされていると思われるが、業務全般をみた時に、環境整備や個々の職員の業務の進め方などにはまだ改善の余地があると思われる。職員一人ひとりの業務の効率化、技術の向上が図れるような取り組みをしていきたい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		昨年度の評価を受け改善を行った。改善できた点もあったが、運営上 改善が難しい点もあったためできる限り改善できるよう取り組んだ。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の振り返りや普段の会話の中で 疑問に思った点や意見など話すようにしている。また、個別面談でも各々の意見や改善した方がいい点を聞くようにし すぐに改善するように取り組んでいる。	

	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価はまだ行っていないが、事業が事業所だけの独りよがりのものとならないよう、外部研修に積極的に参加したり、書籍やメディアで新しい情報を取り入れたりして、常に客観視するよう取り組んでいる。	事業所が大きくなるにつれて、第三者による外部評価の必要性を実感している。機会をみて評価を取り入れていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		○	事業所内研修を定期的に行ったり、外部研修に参加したりして、職員の質の向上を図る機会を設けている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○	カラフルの支援がどのようなものであるか理解してもらえるよう、より具体的にわかりやすく作成、公表した。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。		○	保護者との面談、関係機関からの情報、通園先や療育での様子等をもとに、職員全体で支援会議を行い客観的に分析し作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○	子どもの支援に携わる全ての職員で会議を行い、発達や子どもの現在の様子について共有し話し合った上で、支援目標の設定や評価に取り組んでいる。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○	それぞれの子どもの発達の現状、特性、課題やねらいなど共有し、計画に沿った支援を行っている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○	分析的発達検査表等のアセスメントツールを使用している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		○	ガイドラインに沿った5領域の項目のそれぞれの発達支援に対応し「家族支援」「地域支援」等も具体的な支援内容を取り入れている。アセスメントやカンファレンスを丁寧に行い、子どもの状況を的確に把握し適切な支援計画が作成できるよう取り組んでいる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○	担任を中心に、児童発達支援管理責任者や管理者、支援に入る職員等に相談しながら活動プログラムを決めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		○	固定化しないよう様々なあそびを取り入れているが、あえて同じ遊びを繰り返す行うことが大事な発達段階や子ども達もいるため、子供の発達や課題、ねらいに合わせてあえて意図的に同じあそびを続けて行うこともある。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		○		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	打合せは必ず行うようにしている。役割分担については決めてはいるが、子どもの様子やその時の状況により臨機応変に対応することも大事にしている。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に疑問に思った点や気付いた点 等について、皆で振り返りを行うことで、次からの適切な支援につなげていけるよう取り組んだ。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		発達上大事なこと等 記録しておくべき内容についてその日のうちに記録するようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		日々のこどもの様子、発達評価会議、家族面談等により適切な見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担任だけでなく、必要な時は児童発達支援管理責任者も同行し出席、子どもの特性や課題についてより具体的に説明し、関係機関の方々と共通理解を図るようにつとめている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		常に連携をとるようにつとめている。子どもや保護者の状況や支援内容について等、共有が必要となる場合はすぐに連絡をとるようにしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		こどもが集団にスムーズに入れるよう、環境整備や具体的な支援等について伝えるようにしている。必要に応じて、電話や訪問するなど対応している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行支援シートを作成し、引き続き適切な支援が行われるよう取り組んでいる。必要に応じて電話で個別に対応したり訪問したりしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		センターはセンターとしてどのようなことに取り組んでいるのか知る機会がなく、助言等を受ける機会もない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	並行通園のこどもがほとんどであるため、交流の機会を設けることは難しかった。	地域の中で同年代のこどもを招待して、一緒に活動する等の機会があってもよいと思うが、個人情報保護の観点から難しい面もあるのが実情だと思われる。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々のこどもの様子を、写真や動画を交えて保護者に伝えている。こどもの成長や課題が見られた際には特に共有するようつとめている。また、親子通園のこどもについては、その場で保護者に発達状況や課題等を話し共通理解を図るようにしている。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		定期的に、発達やこどもの様子やねらい、子どもへの関わり方を保護者に伝える等の学習会を設けている。また外部の先生を招いて 発達や就学先等について学びを深める学習会を催している。	外部研修で学んだペアレント・トレーニングの内容を取り入れ、今年度より取り組んでいく予定。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用開始時に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談時や普段のやり取りの中で、こどもと保護者の意向を確認し、意志を尊重した上で、個別支援計画を作成するようにしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		面談を行い丁寧に説明し同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		面談の時以外にも、保護者が自由に相談に来れる日を設けた。保護者の悩みには随時対応し丁寧に子どもへの関わり方等の助言を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		「保護者の交流会」を行って、保護者同士で悩みを共有し合ったり、自由に話をする時間を設けたりした。また、小学生以上のお子さんがいる卒園児のお母さん方も招いての交流会も行い、就学してからのことや就学先の詳しい内容について情報共有したりして、できる限り保護者が就学に向けて少しでも安心できるよう支援している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者の方にはいつでも相談にのる旨伝えているのはもちろんのこと、相談しやすい雰囲気づくりを日頃から心がけている。相談に対してはできる限り迅速に対応し、具体的な支援方法を伝えるよう取り組んでいる。自由に相談に来れる日も設けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNSや文書等を通じて行った。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		職員を採用する際に、まずは適切な人物を採用している。また雇用契約時に「秘密保持についての誓約書」に署名してもらい、研修等を通じて個人情報の取り扱いには十分留意するように指導している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	先月移転してきたばかりなのでまだ行っていないが、移転時に地域の皆様に法人や事業内容について文書で説明し紹介を行った。	療育活動の中で地域の方々と交流できるような機会を可能な範囲で設けていきたい。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事業所内研修や避難訓練において、子どもと一緒にまたは職員で訓練を行っている。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			先月移転してきたため、移転後の新しい建物での避難訓練を来月行う予定である。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		入園時に保護者からの情報で確認している。その後もしこどもに新たに変化があった場合には、保護者とすぐに情報を共有し対応するようにしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーがあるこどもはいるが、医師の指示書があるこどもは現在はいない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			安全計画を作成し、研修や訓練その他必要な措置を講じたが、移転したため また新たに作成し直し、設備や外周等危険な箇所を確認し現在対応しているところである。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者に文面で周知説明はしたが、詳しくは説明が不十分であった。	面談時に詳細について説明する時間をとるようにする。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		日々の振り返りの中でヒヤリハットについて報告、対策を検討し再発防止につとめている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止についての事業所内研修を定期的に行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			